

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	ぶれあ保育園・新小岩
施設所在地	葛飾区西新小岩1-2-4 うだがわビル
法人名	キッズブレイ株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

0歳児【音の楽しさを見つける】

1歳児【音色の違いを楽しむ】

2歳児【自ら音を出してみる】

<テーマの設定理由>

それぞれの発達や年齢によって音に興味を示し、楽しむ様子が見られたため。各クラスでテーマを設定し活動を計画していく。
【0歳児】遊びの中で物や玩具をたたいたり、口に入れてみたりと確かめるように遊び始めており他クラスからの歌や曲にとっても興味を持っていたことから設定。
【1歳児】タンバリン、太鼓、鈴など身近な楽器普段から触れる事で「この音がいい」、「こうやって音を出したい」よ音色の違いを感じたり、好みが出てくるようになったのでそれを深掘するため。
【2歳児】日常で耳にする音に興味津々で色々な音を拾いながら実際に楽器を演奏してみて楽しむ姿が見られたため。

2. 活動スケジュール

【0歳児】9月…廃材遊びの中で音が鳴る事を知る。11月…ペットボトルマラカスに触れて音を出して遊ぶ。12月…リズムパッドで遊ぶ。1月…楽器に気づき、興味を持って遊ぶ。2月…音の出るパネルでリズム遊びをする。3月…自分で音を出して遊ぶ。
【1歳児】12月…ピアノや楽器の音に合わせて音を鳴らして楽しむ。1月…新しい回転式の音の出る玩具を使い材質や回転スピードの違いを楽しむ。2月…自ら楽器の新しい使い方を発見し、今までとは違う音色に気づき、自分で鳴らしてみる。
【2歳児】9月…楽器に触れてみる。11月…運動会で鼓笛隊をやる。(おもちゃのチャチャチャ) 3月…室内でも演奏してみよう。、探索しながら音を探してみる。(散歩中)、卒園式で桃太郎の劇ごっこをやってみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【0歳児】ペットボトルマラカス(ストロー、米、ビー玉)→玩具棚に置いておき、自由に遊べるようにした。 ミルク缶、スポンジ、リズムパッド→室内遊びの際、広くスペースをとっておき、どのようにして遊び始めるかを観察していく。 楽器類→他のクラスの楽器に興味を示し、遊び始める。
【1歳児】鈴やタンバリン、太鼓、アコーディオン、廃材などを使用する。→楽器を自由に手に取る事の出来る環境を設定することでいつでも好きな楽器に触れられるように工夫をした。また、楽器の使い方に関して子どもたちの「やってみたい」という思いを受け止め、見守りながら危険のないように周囲の環境を整えた。楽器の使い方以外にも廃材で音を出す楽しさを感じ、慣れ親しむようにした。
【2歳児】 タンバリン、鈴、太鼓、鉄琴、アコーディオン、ピアノ、スピーカー、石、木の枝など。 子ども自身が音の違いを感じながら「自分でやってみたい」という思いを大切に自主的に演奏する姿を見守るようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【0歳児】身近な廃材や玩具は振ったりたたいたりしながら音の鳴る様子をじっと聞いたり眺めて様子を伺い、次第に自分たちで握ってみたり、転がして遊び始めるようになってきた。また、クラスに設置された音が出るパネルも徐々に使い方を理解して遊び始めている。他クラスから聞こえてくる曲にリズムを取って体を揺らして楽しんでいた。運動会や夏まつりといった行事の中でも日頃から曲や歌が流れている事から楽しむ姿が見られた。

【1歳児】タンバリンはたたく、太鼓はパチでたたくと楽器の使いかたに慣れてくると楽器ごとの音の出し方が理解できるようになってきた。そこから「パチでタンバリンをたたいてみる」という探究が始まり、楽器を重ねてたたいてみるなどの発想が加わり、音がどんな変化をするか自分のやり方で変わる音の楽しさを味わえるような声掛けをして一緒に楽しみながら興味の広がる関わり方をした。

【2歳児】子どもたち自ら好きな楽器を選んで演奏してみる。運動会では鼓笛隊を行い、室内た散歩中에서도歩きながら歌う姿が見られた。卒園式で行う劇では子どもたちの提案で「ダンスがやりたい」との声が上がり、スピーカーやピアノの音に合わせた劇を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

【0歳児】机を自然と一人が「ターンターン」とたたきはじめ、保育士もそれに合わせてリズムを口ずさむと他児も真似をして遊びだし、机でピアノを弾く真似をし始めると子どもたちも「タンタタター」と言いながら歌いだしていた。

【1歳児】音を言葉で表現し「カラカラするよ」、「ドンドン音がする」などと音色で表し、友だち同士で「〇〇の音を出そう」と同じ楽器を手に取り、演奏していた。パチで鉄琴をたたくと「キーン」と音が鳴り、「きれいなおと」と喜び、保育者に知らせ音を鳴らすことを楽しんでた。

【2歳児】はじめは夢中になって音を鳴らしていた子どもたち。少しづつ音の変化に気付き、「この音だんだん聞こえなくなってきたよ」、「こうやってたたくと音が大きくなるよ」と教えてくれた。音に合わせて鼻歌で好きな歌を歌い始め、そこから音楽に合わせて演奏してみる。(鼓笛隊) 劇では音に合わせて動く・止まる・踊る・歌うなど自分で判断をして取り組むことが出来た。

活動の様子が分かる写真はホームページの園日記に掲載しています。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【0歳児】0歳という年齢は見るものすべてが初めてのものであり、それらの感触・色・大きさなど一つ一つじっくりと時間を書けて観察し、模倣へと繋げているのだと改めて見て感じた。次年度は観察してからというよりは自分たち自らが身体を動かして音やリズムに触れていける環境を作っていきたい。

【1歳児】楽器で遊んでいくうちに音の出し方への工夫が見られたり、音の違いや自分好みの使い方を見つける姿が見られた。新しい回転式の玩具は早く回すことで音が大きくなる事に気付き、沢山回したり二種類の玩具を同時に鳴らすことで音の刺激を感じていた。今後も様々な音に慣れ親しめるようにしていく。

【2歳児】子どもたち自ら「これをやりたい」などの楽器の指定もあり、日々音に触れていた事で遊びの中でも鼻歌を歌い、それが友達にも伝染して皆で大合唱するなどの微笑ましい姿も見られた。子どもたちの思いや考えを尊重して興味のある事を深堀していきたい。